

褥瘡発生率

- 分子
 - d2(真皮までの損傷)以上の院内新規褥瘡発生患者数
- 分母
 - 同日入退院患者または褥瘡持込患者または調査月間以前の院内新規褥瘡発生患者を除く入院患者延べ数(人日)

算出方法

1. 調査月間における在院患者および退院患者を対象とする。
2. 1のうち、同日入退院の患者を除外する。
3. 2のうち、入院時刻から24時間以内にDESIGN-R®（2008年改訂版褥瘡経過評価用）1) Depth（深さ）のd1, d2, D3, D4, D5, DUのいずれかの記録がある患者を除外する。
4. 3のうち、同一入院期間中の調査月間以前に院内新規褥瘡があった患者を除外する。
5. 4の入院延べ日数を分母とする。
6. 4のうち、院内新規褥瘡があった患者数を分子とする。

用語定義：

- 同日入退院：入院日および退院日が同一のもの
- 院内新規褥瘡：入院時刻から24時間以内にDESIGN-R分類のd1, d2, D3, D4, D5, DUのいずれかの記録がない、かつ入院後24時間以上経過ののうちDESIGN-R分類のd2, D3, D4, D5, DUのいずれかの記録があるもののうち初回のもの

定義の解釈

- QIプロジェクトの定義は、目の前の患者が褥瘡発生する確率を見ているものであり、日々のケアの質に関わるものである。

分母・分子計算例①

例1:

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が9/15の場合、分母に30、分子に1とする。

例2:

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が8/15の場合、分母から除外、分子からも除外。

例3: (治癒して再度発生した場合、異なる部位に発生した場合等)

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が8/15と9/15の場合、分母から除外、分子からも除外。

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が8/15(d1)と9/15(d2以上)の場合も、分母から除外、分子からも除外

例4:

患者Bの入院期間が7/1～9/15で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が9/10の場合、分母に15、分子に1とする。

よって、例1～例4のみ場合には分母は $30 + 15 = 45$ 、分子は $1 + 1 = 2$ となる。

分母・分子計算例②

	調査期間外	調査期間(9/1~9/30)	調査期間外	分母	分子
例1	7/1入院 ←————— —————→	————— —————	————— —————→ 11/30退院	30	1
例2	7/1入院 ← ————— —————→	————— —————	————— —————→ 11/30退院	除外	除外
例3	7/1入院 ← ————— ————— —————→	————— —————	————— —————→ 11/30退院	除外	除外
例4	7/1入院 ←————— —————→	————— —————→ 9/15退院	————— —————→ 入院時褥瘡なし	15	1
調査期間に複数回入院がある場合 対象となる複数回の入院日数を合計する		9/2入院 9/13入院 入院時褥瘡あり ← ————— ————— —————→ 9/5退院 9/18退院	9/25入院 入院時褥瘡なし ————— —————→ 9/28退院	8	1
	7/1入院 ←————— —————→		————— —————→ 9/25退院 9/28入院 11/10退院	28	0


 褥瘡発生

調査期間内の対象入院患者の入院日数と
入院期間中の褥瘡新規発生

10月以降の対象

参考資料

日本褥瘡学会

DESIGN-R®（2008年改訂版褥瘡経過評価用）1) Depth(深さ)

Depth(深さ)	内容
d0	皮膚損傷・発赤なし
d1	持続する発赤
d2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織を超える損傷
D5	関節腔、体腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合

変更履歴

変更日	内容
2019/04/12	算出方法は変更なし。定義書の文言修正。